

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん(1Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	令和5年12月13日	評価結果市町村受理日	令和6年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年 2月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾を眼下に眺め風光明媚で豊かな自然の下「入居者様全員が幸せに過ごせますように」を理念に掲げ日々、利用者様の意志を尊重し、お一人お一人が楽しく生活出来るように職員一同支援に努めている。常に自立支援を念頭におき、残存機能を活かした介護にあたることで認知症の進行防止及び身体機能維持に努めている。日課においては、基本的な1日の流れはあるが利用者個々の意向に応じ柔軟に対応している。レクリエーションでは利用者様、職員が共に参加することで楽しく過ごして頂けるよう努めている。又、食事には、最も力を注いでおり、利用者様の好みや嚥下状態を考慮しつつ常に栄養バランスや旬の食材を提供し食の楽しみを感じて頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は眼前に美しい佐世保湾の海や島を望む高台に位置している。全員が幸せに暮らせようにと、一日1回は入居者と職員が語り合う時間を取ることで、入居者が家族の名前を失念した場合にも思い出せるように職員も家族の名前を覚えておくことなど、人と人の繋がりを大切に心温まる支援がある。毎月の事業所便りには介護に関する詳細な記録を添えて郵送しており、家族に入居者の状況や事業所の取組を丁寧に伝えることは、家族とともに入居者を支えていることであり優れた特長である。“入居者様全員が幸せに過ごせますように”という理念を掲げて、一人ひとりの入居者にとっての幸せとは何かを考え、安心安全で心豊かな生活を支えている職員の姿勢が、入居者の“笑顔”に繋がっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者全員が幸せに過ごせますように」の理念を掲げ、「入居者様の幸せとは何か」を考え、毎日笑顔で過ごして頂けるように、職員全体で努力している。具体的には、家庭的な食事の提供や他者との交流支援を大切に考えている。	“入居者全員が幸せに過ごせますように”という理念は事業所内各所に掲示しており、日頃から理念に沿ったサービスの実現に向けての意識付けが図られている。職員は、一日の内必ず一回は会話しようと一人ひとりの入居者に声を掛けており、本人にとって何が幸せかを考え、支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の前は事業所主催の行事にボランティアの訪問があり、地域との交流を深めていた。その他、公会堂掃除に参加し、地域の構成員として役割を果たし交流を深める様努めている。	自治会に加入し、回覧板を回したり公民館清掃に赴いたりして、地域住民とは日頃から顔見知りであって挨拶を交わす間柄である。“地域との連携ノート”を作成し、交流の記録を記している。中学生の職場体験や地域の祭りは現在も自粛中で、入居者職員ともに再開を待ち望んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根づいた協力医療機関の先生や地域包括支援センター職員様、自治会長や民生委員様方のご協力も頂きながら利用相談等を随時受付けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度定期的に(書面)会議を開催し、施設の状況や活動報告を行っている。又、質疑応答や意見交換を行い、情報収集に努めサービス向上に活かしている。	年6回の運営推進会議は現在も書面会議としている。事業所の現況や活動報告を議事案として包括支援センター、民生委員に送付しているが、書面、電話等での返信はなく、双方向の会議として成立していない。また、行政や家族への報告も未だ実施していない。	市では現在対面会議を推奨している。出席者の確認、双方向での話し合いの実施、会議を活かした取組へと繋げることが望まれる。また、家族等への報告等の取組が待たれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて自治体の相談窓口へ出向いている。運営推進会議には毎回地域包括支援センターの方に参加して頂き助言、アドバイス等受けている。	近隣にある複数の包括支援センターとの連携や行政担当課との連絡内容は、連携ノートに記録している。入居申込み者と共に窓口を訪ね、行政手続きを行ったことがある。行政からの研修案内がメールで届いており、初任者研修受講、リモートでの管理者認定講習に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修や勉強会などを通じて、身体拘束を理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を策定し、2ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。内部研修ではスピーチロック、ドラッグロック等も取り上げ、身体拘束をしないケアの実践に努めている。離床センサーや安全ベルト使用については、家族の同意を得た上で毎月の使用経過記録を郵送し、確認を取っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部勉強会を行い、職員全員が利用者様の人権を尊重し、虐待の無いケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他のユニットに成年後見制度が必要な利用者様が御入居されており、後見人の方との連携も定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族、利用者様を含め分かり易く丁寧な説明を心がけており、納得された上で同意を得ている。又、契約内容の改訂時は都度文書送付、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等によりご意見ご要望を受け付け、ご意見を伺い前向きにとらえ、運営に反映するように心がけている。	職員は、入居者全員と毎日会話している他、月1回ケアマネジャーが本人とゆっくり話す時間を設け、困っていること等を傾聴し、内容は職員で共有し解決できるように検討している。毎月の事業所便りに介護に関する詳細な記録を添えて郵送しており、状況がわかると好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議を毎月定期的に行う他、会議や勉強会の場以外でも意見交換することもある。代表者は各職員との面談を行いながら、現場の把握に努めている。	毎月ユニット会議、2ヶ月に一度の全体会議、ケア会議や業務会議など多数の会議で職員は意見を出している。新入職員には言葉遣いなどを指導するとともに、本人の困り感を聞き取りアドバイスしている。職員の希望する有給休暇の取得も進み、働きやすい職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員との面談や来所時に於いて、職員の近況について把握し、利用者様にとっても良い職場づくりを目指し工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦ということも鑑み、集合研修への参加は薦めていないが、自己研鑽を大いに薦めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、相互の勉強になるように努め、情報交換の場としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等必要な情報を得た上で、利用者個々との対話を行う事で信頼関係を築き、心身状況の把握理解し、傾聴の態度で接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前の事前面談で、ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、事業所での対応、方針について話し合い、安心して生活でいられるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご家族との面談の場を設け、また他サービス事業所の方と十分な話し合いを行ったうえで、必要な方へ必要なサービス提供をできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリを兼ね、利用者様の能力や生活歴を考慮したうえで、できる範囲での家事活動への参加支援を日常的に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の心身状態変化に気を配り、その様子をご家族様に伝え、情報の共有、支援の方向性をご家族の意向を伺いながら共に支えあい支援するよう努めている。又、毎月の記録開示も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあっても近隣地域に居住されている家族様や馴染みの知人様の面会や電話連絡を極力制限をせずに交流支援している。	事業所は、現在もコロナ感染予防対策として外出支援を自粛しており、収束後には徐々に再開したいと考えている。新聞から趣味の囲碁の記事を切り抜いて収集している人がいる。時間制限があるものの、家族や友人との面会を支援し、馴染みの人との関係継続に配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集い、利用者様同士で交流出来る機会を作り、職員が会話のきっかけを作ってコミュニケーションが図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も他施設や医療機関への面会やご家族との情報交換を行うなど、入所時に構築した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様、ご家族への意見を伺い、更に日常の行動、言動や表情から思いをくみ取り、意向表出が困難な入所者様へも、食事や排泄面においては特に配慮を行っている。	起床や就寝の時間は自由であり、朝食の提供は本人に合わせている。職員は入居者と1対1の時間を大切にしており、会話から知り得た情報は職員間で共有している。意思の表出が困難な場合は、家族の協力を得て本人本位で支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談にて、生活歴等情報収集を行い、入所後もご本人様、ご家族様との会話の中から支援につながる情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調、行動、表情、言動を常に観察し、毎日の情報交換や月1回のユニット会議で現状把握を行い、個別サービス提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者様本人、ご家族様面会時に意見、要望を確認し、ユニット会議を実施、必要に応じての変更訂正を行っている。	入所後暫定プランを使用し、毎月の担当者会議で検討した上で介護計画を策定する。短期目標6ヶ月、長期目標1年で見直しを行っている。医療連携変更時等には、随時見直しを実施している。遠方の家族には電話で近況報告し、計画の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表や介護支援記録等に生活状況を記録し、職員間で情報共有を行っている。またそれらの記録をもとに、介護計画の見直し、評価を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者様の心身の状態やご家族の意向に配慮しながら、臨機応変に対応し、入所者様の満足に繋がるよう、サービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候やご本人の状況によっては、散歩などによって近隣の方との交流も支援し、顔なじみの関係の構築し、離設などの場合においても地域ぐるみでの見守りを行ってもらえるように地域の方の御力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受ける体制が整っており、ご家族とも情報共有し健康管理を行っている。又、希望される医療機関への受診が出来る様支援している。	入居時に毎週往診ができる協力医を紹介し、主治医とすることを推奨している。以前からのかかりつけ医や他科受診の場合は家族対応を基本としている。歯科医は随時往診が可能である。緊急時の対応について主治医と相談して取り決めている。受診内容、薬の変更等は家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制下、担当看護師による定期的な訪問と情報共有で日常的な健康管理を支援している。また、体調不良や急変時は早期に適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時面会を行い、状態の把握やご本人様の不安の払拭に心がけている。ご家族様、医療機関との情報交換も密に行い、万全の態勢での退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りについての事業所方針を文書化し入所者様本人、ご家族へ説明を行い、同意を得ている。終末期の支援については、入所者様、御家族の意向要望を確認しながら関係者全員で話し合いを行い、同意の上で支援実施している。	重度化した場合の対応に係わる指針を策定し、医療連携体制と共に、契約時に説明し同時を得ている。終末期の段階に至ると医師から家族に状況を説明し、ケアの方針を話し合い共有化している。看取りやエンゼルケアに関する勉強会を行い、職員全員で支えていく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練時、緊急時の対応や、AEDの使用方法、蘇生術等の説明や講義を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理や消防計画書を作成し、定期的に消防避難訓練を実施し、確実な通報や避難誘導が出来るように努めている。消防署立ち合いの訓練を年2回実施し、各種アドバイスも受けている。	夜間想定を含めた消防避難訓練を毎月実施し、消防署立ち会い訓練後にはAED講習を行っている。2階建ての事業所には内階段がないことから災害時に外階段の使用を想定している。ただし搬出訓練や自然災害時の対応、避難後の安否確認方法についての取組はこれからである。また、BCPについては現在内容を検討中である。	事業所の建造物構造や立地条件から外部からの救助の工夫が求められる。消防署等の助言を得て安全な避難のための手立てが待たれる。台風地震等自然災害への対策についての取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の人格や特徴に配慮し、敬称を基本としながらも、その方が好まれるように配慮し、言葉遣いには職員間で注意しあいながら尊厳保持に努めている。	職員は入居者を苗字にさん付けで呼んでいる。トイレはカーテンを閉めて職員の立ち位置を決めて支援する他、居室でのおむつ交換は必ずドアを閉めて、プライバシーに配慮している。記録類は個人名がわからないように工夫しており、職員は守秘義務の誓約書を提出し遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様の意見を尊重し、発言し易い場面作りを心がけ、傾聴するよう努めている。発言困難な入所者様には表情や仕草等で意思をくみ取るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての一日の生活の流れはあるが、各自の体調や精神状態に合わせ、ご本人様の意思を尊重し、希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用されている。可能な方にはご本人様に衣類の選択をしていただいたり、整容を行っていただいている。介助の必要な方には意向確認行いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合わせた献立や、誕生会、入所様の好みを伺う等、希望に添った献立作り心がけている。食前のテーブル拭きや、簡単な下膳等のお手伝いをさせていただいている。	毎日の食事は当日担当の職員がメニューを考えて調理している。入居者が苦手な食材や食物アレルギーを把握しており代替品を提供し、ペーストやトロミなどにも対応している。誕生日は紅茶やコーヒー、ケーキで祝っており、春と秋の行事では弁当を取って皆で楽しい時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫を実施している。又、摂取量の記録を行い健康管理に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、可能な方にはご自身で、介助が必要な方には一部介助等、ご本人の能力に合わせた支援を行っている。又、週1回義歯の消毒洗浄を行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し言動や行動、仕草で排泄の欲求を察知し、トイレでの排泄が出来られる様支援している。又、極力オムツの使用は避け、自立した排泄の支援に努めている。	職員は、入居者ごとの排泄チェック表をもとに、耳元で声掛けして誘導している。パッドサイズは現状に応じて検討しており、特に失敗が続くときは職員間で改善策を検討し支援している。ポータブルトイレは使用後に都度洗浄し、居室の衛生管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な日常運動や、レクリエーション等で体を動かして頂き、食事の面では食物繊維や乳酸菌の摂取、こまめな水分補給で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日設定しているが、入所者様、ご家族からの要望には臨機応変に対応している。又、菖蒲湯や柚子湯など季節感ある風呂を提供している。	各ユニットでは一人週2回の入浴を支援しており、入浴日以外は、衣類の交換や清拭で清潔で快適に過ごせるよう支援している。入浴を拒否する場合は、仲のいい入居者の協力を得たり、声掛けしている。下肢筋力の弱い人や意思疎通が困難な人はシャワー浴で対応している。菖蒲湯やゆず湯で会話が弾んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の体調に合わせて活動して頂き、ゆっくり休養が取れる環境づくりに努めている。又、日常運動やレクリエーションで適度な疲労を感じ、夜間の安眠確保に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新、過去の薬事表を保管し、全職員が把握できるようにしている。又、飲み忘れや誤薬等が無い様に、内服薬は三重の確認、服薬後の薬袋の保管を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年2回の外出や、演芸ボランティアの方の来訪、季節ごとの行事の実施により気分転換を図っている。レクリエーション実施時には適応性に配慮し、得意分野を生かした共同生活が出来よう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の申し出があれば出来るだけ要望に添う様努めている。気候の良い時は玄関先のベンチに座って外気浴を楽しんでいただく。	事業所では、コロナ感染予防対策として外出を自粛している。そのため、天気の良い日はベランダに出たり、玄関先のベンチで外気浴できるよう支援している。感染収束後には、春の花見やドライブしながらの外食など、これまでの支援を再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的な外出行事やご家族との外出時は、希望や能力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話する際に入所者様に電話をつないだり、希望されればこちらから電話をかけている。又、年賀状等はがきを書いていただき、職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面に季節に応じた装飾を行い、花を飾る等視覚で楽しんでいただき、心落ち着く環境づくりに努め、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	室温や空気清浄、採光に配慮された快適なリビングには、テーブルやソファを配置している。季節の飾り付けや理念、嚆下体操や歌の歌詞の掲示、“今日は〇〇の日”等の情報を記したボードを置き、居心地のよい設えとなっている。オープンキッチンからは食事の音や匂いが漂い、生活感のある環境であることがわかる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ、新聞、雑誌などを設置しており、自由に読めるようにしている。気の合う入所者様同士会話を楽しんでいただき、思い思いに過ごして頂ける様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様、御家族と相談しながら、思い出の品や愛着のある物、使い慣れた家具等を持ち込んでいただいたり、写真や装飾品を飾っていただき、居心地良く過ごせるよう努めている。	家族の写真や遺影位牌、誕生日プレゼントのぬいぐるみ、ストレッチポールや化粧道具、CD等、本人の生活歴や好み、趣味を活かした居室の設えがみえる。新聞の囲碁将棋欄を愉しんだり、携帯電話を所持して家族と連絡を取ったり、遠方の友人と文通をしたりして本人らしく過ごすことができる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様個々の身体、認知能力を考慮した住環境作りを意識し、全員が安全に出来るだけ自立した生活が送れるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん(2Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	令和5年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保済を眼下に眺め風光明媚で豊かな自然の下「入居者様全員が幸せに過ごせますように」を理念に掲げ日々、利用者様の意志を尊重し、お一人お一人が楽しく生活出来るように職員一同支援に努めている。常に自立支援を念頭におき、残存機能を活かした介護にあたることで認知症の進行防止及び身体機能維持に努めている。日課においては、基本的な1日の流れはあるが利用者個々の意向に応じ柔軟に対応している。レクリエーションでは利用者様、職員が共に参加することで楽しく過ごして頂けるよう努めている。又、食事には、最も力を注いでおり、利用者様の好みや嚥下状態を考慮しつつ常に栄養バランスや旬の食材を提供し食の楽しみを感じて頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者全員が幸せに過ごせますように」の理念を掲げ、「入居者様の幸せとは何か」を考え、毎日笑顔で過ごして頂けるように、職員全体で努力している。具体的には、家庭的な食事の提供や他者との交流支援を大切に考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の前は事業所主催の行事にボランティアの訪問があり、地域との交流を深めていた。その他、公会堂掃除に参加し、地域の構成員として役割を果たし交流を深める様努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根づいた協力医療機関の先生や地域包括支援センター職員様、自治会長や民生委員様方のご協力も頂きながら利用相談等を随時受付ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度定期的に(書面)会議を開催し、施設の状況や活動報告を行っている。又、質疑応答や意見交換を行い、情報収集に努めサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて自治体の相談窓口へ出向いている。運営推進会議には毎回地域包括支援センターの方に参加して頂き助言、アドバイス等受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修や勉強会などを通じて、身体拘束を理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部勉強会を行い、職員全員が利用者様の人権を尊重し、虐待の無いケアに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見等の制度が必要な利用者様も御入居されており、後見人の方との連携も定期的に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族、利用者様を含め分かり易く丁寧な説明を心がけており、納得された上で同意を得ている。又、契約内容の改訂時は都度文書送付、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、御家族に関しては施設での生活状況は「ゆうしゅん便り」で報告を行ったり面会時や電話等により、ご意見を伺い運営に反映されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体会議を毎月定期的に行う他、会議や勉強会の場以外でも意見交換することもある。代表者は各職員との面談を行いながら、現場の把握に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員との面談や来所時に於いて、職員の近況について把握し、利用者様にとっても良い職場づくりを目指し工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ渦ということも鑑み、集合研修への参加は薦めていないが、法人内での勉強会などでの自己研鑽を大いに薦めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、相互の勉強になるように努め、情報交換の場としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等必要な情報を得た上で、利用者個々との対話を行う事で信頼関係を築き、心身状況の把握理解し、傾聴の態度で接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前の事前面談で、ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、施設での対応、方針について話し合い不安解消に努め、安心して生活できられるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご家族との面談の場を設け、十分な話し合いを行ったうえで、必要なサービス提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事実施の際には、風習を教えたいたり、意見を伺う等、人生の先達であることを念頭に置き、楽しく共同生活が送れるよう、心がけている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者様の体調、情緒の変化に気を配り、施設での様子をご家族様に伝え、情報の共有、支援の方向性をご家族の意向を伺いながら共に支えあい支援するよう努めている。又、毎月の記録開示も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域に居住されている馴染みの知人様の面会や、月命日法養時のご住職様の来訪もあり、交流継続している。又、関係が途切えないよう支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集い、利用者様同士で交流出来る機会を作り、職員が会話のきっかけを作ってコミュニケーションが図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も他施設や医療機関への面会やご家族との情報交換を行うなど、入所時に構築した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様、ご家族への意見を伺い、更に日常の行動、言動や表情から思いをくみ取り、意見の発信の困難な入所者様も、その人らしく生活出来る様、支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談にて、生活歴等情報収集を行い、入所後もご本人様、ご家族様との会話の中から支援につながる情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調、行動、表情、言動を常に観察し、毎日の情報交換や月1回のユニット会議で現状把握を行い、個別サービス提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者様本人、ご家族様面会時に意見、要望を確認し、ユニット会議を実施、必要に応じての変更訂正を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表や介護支援記録等に生活状況を記録し、職員間で情報共有を行っている。またそれらの記録をもとに、介護計画の見直し、評価を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者様の心身の状態やご家族の意向に配慮しながら、臨機応変に対応し、入所者様の満足に繋がるよう、サービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に近隣の美容室からの訪問美容サービスを受けている。運営推進会議開催時、出席者の方からの情報を得ながら、地域資源を活用した支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受ける体制が整っており、ご家族とも情報共有し健康管理を行っている。又、希望される医療機関への受診が出来る様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制下、担当看護師による定期的な訪問と情報共有で日常的な健康管理を支援している。また、体調不良や急変時は早期に適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時面会を行い、状態の把握やご本人様の不安の払拭に心がけている。ご家族様、医療機関との情報交換も密に行い、万全の態勢での退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りについての事業所方針を文書化し入所者様本人、ご家族へ説明を行い、同意を得ている。終末期の支援については、入所者様、御家族の意向要望を確認しながら関係者全員で話し合いを行い、同意の上で支援実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練時、緊急時の対応や、AEDの使用方法、蘇生術等の説明や講義を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理や消防計画書を作成し、定期的に消防避難訓練を実施し、確実な通報や避難誘導が出来るように努めている。消防署立ち合いの訓練を年2回実施し、各種アドバイスも受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様は人生の先達であることを念頭に置き、お一人ずつの人格を理解し、性格にあった声かけ等の工夫を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様の意見を尊重し、発言し易い場面作りを心がけ、傾聴するよう努めている。発言困難な入所者様には表情や仕草等で意思をくみ取るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての一日の生活の流れはあるが、各自の体調や精神状態に合わせ、ご本人様の意思を尊重し、希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用されている。可能な方にはご本人様に衣類の選択をしていただいたり、整容を行っていただいている。介助の必要な方には意向確認行いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合わせた献立や、誕生会、入所様の好みを伺う等、希望に添った献立作りに心がけている。食前のテーブル拭きや、簡単な下膳等のお手伝いをさせていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫を実施している。又、摂取量の記録を行い健康管理に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、可能な方にはご自身で、介助が必要な方には一部介助等、ご本人の能力に合わせた支援を行っている。又、週1回義歯の消毒洗浄を行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し言動や行動、仕草で排泄の欲求を察知し、トイレでの排泄が出来られる様支援している。又、極力オムツの使用は避け、自立した排泄の支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な日常運動や、レクリエーション等で体を動かして頂き、食事の面では食物繊維や乳酸菌の摂取、こまめな水分補給で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日設定しているが、入所者様、ご家族からの要望には臨機応変に対応している。又、菖蒲湯や柚子湯など季節感ある風呂を提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の体調に合わせて活動して頂き、ゆっくり休養が取れる環境づくりに努めている。又、日常運動やレクリエーションで適度な疲労を感じ、夜間の安眠確保に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新、過去の薬事表を保管し、全職員が把握できるようにしている。又、飲み忘れや誤薬等が無い様に、内服薬は三重の確認、服薬後の薬袋の保管を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年2回の外出や、演芸ボランティアの方の来訪、季節ごとの行事の実施により気分転換を図っている。レクリエーション実施時には視覚障がい者に配慮し、得意分野を生かした共同生活が出来るよう、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の申し出があれば出来るだけ要望に添う様努めている。気候の良い時は玄関先のベンチに座って外気浴を楽しんでいただく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的な外出行事やご家族との外出時は、希望や能力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話する際に入所者様に電話をつないだり、希望されればこちらから電話をかけている。又、年賀状等はがきを書いていただき、職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面に季節に応じた装飾を行い、花を飾る等視覚で楽しんでいただき、心落ち着く環境づくりに努め、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ、新聞、雑誌などを設置しており、自由に読めるようにしている。気の合う入所者様同士会話を楽しんでいただき、思い思いに過ごして頂ける様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様、御家族と相談しながら、思い出の品や愛着のある物、使い慣れた家具等を持ち込んでいただいたり、写真や装飾品を飾っていただき、居心地良く過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様個々の身体、認知能力を考慮した住環境作りを意識し、全員が安全に出来るだけ自立した生活が送れるように努めている。		